

# 海外語学研修（台湾）

## 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2回生 水津 拓海

今回の語学研修では主に英語能力の向上と異文化交流、歴史、生活を学びたく思い参加した。地理的に近いとはいえ、台湾について知っている事はあまりに少なかったため、今回の研修は大変勉強になった。英語については、中国人や台湾人は英語が達者なイメージを持っていたがかなり個人差があり、それなりに喋れる人もいれば喋れない人もいた。少なくとも、日本人よりは喋れるという印象を持ったが、殆どの台湾人が日常英語を話せると思っていたので驚いた。また、初めて中国系の方と英語で喋って気になった点は発音である。やはり日本訛りがあるように台湾訛りもあり、初めはやや聞き取りづらかった。また、AllergyやAlcohol、Vietnamの発音は日本語のそれと近似していた点は驚いた。これは人によるが、中にはアメリカ英語ではなくイギリス英語を話す人も何人かいた。完全なイギリス英語ではないが、perhapsやbloodyなどを普通に使用しており発音もアメリカ英語のそれとは違った。今回、英語を第2言語とする民族同士で会話し、自分の英語力の確認と新たな発見、国による英語学習の違いを感じることができ、非常に有意義な体験であった。歴史についてはボランティアの学生さんから多くの話を聞いた。台湾という国の成り立ち自体かなり面白い。共産党との紛争に敗北した蒋介石率いる国民党が台湾にて執政を行っていた、位しか私たち日本人は習わなかった。中国における共産党のように、とはいかないまでも、かつての国民党に対する好感度は悪くないのではと思っていたが、実際はちがった。かつて台湾は日本による統治を受けており、日本の教育を受けた有識者が多数いた。日本が敗戦により台湾から撤退した後、国民党が中国から敗走してきたが、その際有識者の反乱と思想の制御を目的に多くの台湾人が虐殺された歴史があったことを聞いた。このような歴史はあったが、国民党なしには今の台湾はありえないから正直複雑な気分だ、というのが現地の若者の歴史に対する声であった。また、寺院や国父記念像などの歴史的建築物はまさに台湾らしく、日本のそれとは全く違う文化に感動した。台湾人の生活は日本や欧米のそれと然程代わりはないと感じた。（どちらかというとなら欧米よりだと感じた。）スーパーの食品売り場や雑貨売り場はアメリカのそれに近い作りだった。都市部の住居は高層の建物が多く、作りも日本のものと比べても然程変わりはないように思えた。しかし、台湾中部や南部の一般的な住居は東南アジアのそれに近い印象を受けた。一番特色が強かったのは食事である。中華料理の本場だけに、食べたことのない料理や香辛料、調味料等目新しいものばかりでとても興味深かった。今回の研修は学びたいことや見たいものを全て成せただけでなく、普通に旅行するだけでは体験できることのできないこともできて大変有意義なものだった。